



レッツ タイムスリップ!

いにしえ
～古の熊本へ～

夏休み発掘体験・見学会

毎年、夏休みに子どもを対象にした体験発掘を各遺跡で行っています。

今年度は、ひだいせきぐん 飛田遺跡群、はばつるいせき 幅・津留遺跡、たくまゆげいせきぐん 託麻弓削遺跡群、きたぞのうえのこふんぐん 北園上野古墳群の4遺跡で企画しましたが、8月の天候不良により、飛田遺跡群の1遺跡だけで、「体験発掘」と「土偶マグネット作り」を行いました。

掘り上げた土器や自分で作った土偶マグネットを手にとって記念撮影し、その写真で認定証を作って子どもたちにプレゼントしました。「とても楽しくて、いい記念になりました。」「また機会があったらやりたいです。」との感想が寄せられ好評でした。

実際の土器を土の中から掘り出す感動を味わってもらい、手にとって、触れることで、先人の残した宝物を実感してもらえたと考えています。今年もたくさんの感動がありました。



飛田体験教室



飛田体験教室・土偶マグネット

教育の日関連事業

◇秋の遺跡発掘調査現場公開



© 2010 熊本県くまモン

「くまもと教育の日」(11月1日) 関連事業として、発掘調査中の遺跡の発掘現場を一般公開しました。発掘調査現場の雰囲気を感じていただける事業です。

本年度ははばつるいせき 幅・津留遺跡 (阿蘇郡高森町)、たくまゆげいせきぐん 託麻弓削遺跡群 (熊本市東区弓削町)、きたぞのうえのこふんぐん 北園上野古墳群 (水俣市陣内) の3遺跡での開催となりました。参加者からは、「前から興味があり、今回初めて参加できて楽しかった。」「発掘体験で実際に土器ができてうれしかった。」などの感想が寄せられました。



託麻弓削遺跡群

縄文時代の足跡

ひだいせきぐん ～飛田遺跡群～ (熊本市北区四方寄町)

飛田遺跡群では、昨年度から縄文時代の遺構や遺物が見つかっていて、今回も縄文時代の住居の跡が見つかりました。

縄文時代の土坑が約40基や竪穴建物跡が3軒ほど見つっています。

炉跡ははっきりとわからなかったのですが、土器の成形時期から縄文時代後期～晩期にかけて生活した人々がいたと思われます。

出土遺物として、縄文土器のほかに鎌や打製石器、磨製石器などがあります。

この場所が周りを見渡せる高い場所にあり、小動物などをとらえるのに最適な場所だったのでしょう。また、土器の作り方の違いから、他地域との交流がおこなわれていたのかもしれない。



縄文土器が集中して出土した土坑

様々な時代のモノが出た！ ～北園上野古墳群～

きたそのうえのこふんぐん
～北園上野古墳群～
—水俣市陣内・ひばりヶ丘所在遺跡（水俣消防署裏）—

調査区は丘陵の南斜面で、薩摩街道等が近くにあり、鹿児島県伊佐市大口盆地や出水市等にも通じる交通の要衝です。古くから人が生活していた地域であることが明らかになりました。

昔の生活跡として、弥生時代後半から古墳時代の土坑（穴）や竪穴建物、古代のかまどを持つ竪穴建物、貝殻や動物の骨等を捨てたと考えられる土坑（穴）等が出土しています。

また中世の石を集めた遺構（集石）があり、火を使用した痕跡が見られるものもあります。

人が使った物（遺物）としては、旧石器時代のチャート製のナイフ形石器や黒曜石製の三稜尖頭器等、貝殻で縄文時代早期の文様を施した土器も出土しています。

6千年以上昔からこの地域には人々が生活していたことが分かりました。



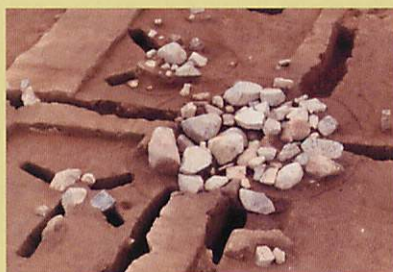
旧石器



縄文時代早期の土器



古代須恵器壺



中世の集石



貝殻が出てきた古代の土坑

縄文後期後半～晩期前半の遺跡の広がりを確認 ～健軍神社周辺遺跡～

健軍神社周辺遺跡群は名称の異なる複数の遺跡をまとめたもので、庄口川東側には健軍上ノ原遺跡、西側には健軍神社遺跡・鳥居原遺跡、庄口川谷部の西斜面にはミョウゲンジ遺跡が存在します。

今回の調査区は陸上自衛隊健軍駐屯地内の南西側にあたります。調査面積は約221㎡と狭いですが、遺構としては幅約4.60m、長さ約3.18mの中世の溝、底部が茶褐色の土坑などが検出されました。溝や土坑の役割はよく分かっていません。

これらの遺構に伴わない2次堆積のものと思われる

遺物に、縄文時代後期後半から晩期前半の土器・石器がありました。土器では黒川式土器の精製浅鉢と粗製、石器では石鏃などが出土しました。これらの縄文時代後・晩期遺物については健軍上ノ原遺跡の住居域から運ばれてきたのではないかと考え、その関連性を検討しているところです。



黒川式土器出土状況

集落中心街のようすはいかに ～幅・津留遺跡～

幅・津留遺跡の発掘調査は、平成18年度から開始し本年度で終了します。約8年4か月にも及ぶ大規模な発掘調査でした。

幅・津留遺跡は、阿蘇郡高森町の西方の周囲より一段高くなった溶岩によってできた台地に位置しています。これまでの発掘調査により、営み始めた時期が異なる2つの集落が台地の上に形成されたことがわかりました。最初に集落を形成したのは弥生時代の中ごろ（中期後半）です。ところが人口増加に伴って新たな集落を形成しなければならなくなり、東側に新たに集落をつくったのが弥生時代の終わりごろ（後期後半）です。

本年度は、新たに形成され集落から、生活用水路と線刻絵画土器が出土しました。まず、生活用水路ですが、水路幅が約4～5mで、深さが当時の地面から約75cmありました。水路の中から、木製品を保管するためと思われる施設なども発見されています。一方、線刻絵画土器は、側柱で屋根を支える平屋大型建物が描かれていると考えられます。

これらの遺構や遺物から次のようなことを考えています。私たちは、これまでの約8年間で、遺跡の縁辺部を調査してきました。ところが、水路は調査の成果から予想している集落の中心部と思われる方向に流れていっています。周辺部でもすごい建物などがこれまで発見されていますが、水路が向かう方向にはこれまで確認されたものとは異なる中心部が築かれていたのかもしれない。仮に、この集落で土器を作っていたのであれば、土器に刻まれた平屋大型建物こそがその中心部に築かれているのかもしれない。

今回の調査では、そこまでは解明できませんでしたが、未来の人々にその夢を大切に残しておきたいと思えます。

これまで多くのご支援ありがとうございました。



平屋大型建物を描いた絵画土器

されき う 砂礫に埋もれし未知の遺跡 ～託麻弓削遺跡群1区～

たくま ゆげ いせきぐん くまもと しひがしく ゆげ
託麻弓削遺跡群は、熊本市東区弓削町にある遺跡です。

しらかわちゅうりゅういき しらかわかせんげきじんさいがいたい
白川中流域に位置するこの遺跡は、白川河川激甚災害対
ざくとくべつぎんきゆうじぎょう ともな
策特別緊急事業に伴って発掘調査が行われました。これまで
本格的な発掘調査が行われたことはなく、どんな遺跡なのか
よく分かっていませんでした。

今年度の調査では、遺跡が過去に何度も洪水によって浸水
していたことが分かりました。現在も遺跡の周囲には農地が
広がっていますが、昔から農地として利用されていたことも
明らかになりました。

水を通すために掘られた暗渠の底から石に混じって多くの
古代の土師器や須恵器、布目瓦の破片が見つかりました。これらは、偶然入り込んだのではなく、水通し
をよくするためわざと石に混ぜたと考えられます。

他には帯飾りの一種である石製丸鞆も見つかりました。古代（奈良時代～平安時代）の役人が身に付けて
いた帯飾りの発見は、この遺跡の周囲にそうした人たちが住んでいた集落か、あるいは勤めていた職場
があった可能性を示しています。

今後、同じ遺跡の違う場所でも発掘調査が行われる予定です。どんなものが見つかるか調査結果をご期
待下さい。



せきせい まるとも
石製丸鞆

まる たてあなたてもものあと 大きくて円い 縦穴建物跡 ～託麻弓削遺跡群2区～

たくま ゆげ いせきぐん くまもと しひがしく ゆげまち
託麻弓削遺跡群は熊本市東区弓削町にある遺跡です。

調査2区のすぐ北には白川が流れ、東には阿蘇の外輪山の
山々が見渡せます。調査面積は約2,800㎡です。

たてあなたてもものあと ほつたてぼしらたてもものあと
方形の縦穴建物跡9件、掘立柱建物跡4件が見つかりました。

ほとんどの縦穴建物跡はカマドを伴い、出土した土器のかけら
等から古代（奈良時代～平安時代）の遺構と思われま

更に掘り下げて調査を進めていくと縄文時代後晩期の土器の
かけらが多数出土し、縦穴建物跡が現れました。

長径約9m、短径約8.5mの円形、柱穴15基、全体に焼土が広がり、周囲を炭化物の層に囲まれた
大きな遺構です。

出土した土器のかけらから縄文時代後期末の縦穴建物と思われま

土器の他には石皿、すり石、砥石、勾玉、十字型石器等も出土しました。



たてあなたてもものあと
縦穴建物跡

国指定名勝 **肥後領内名勝地** 五郎ガ瀧・聖り瀧・走り水ノ瀧・建神ノ岩・神ノ瀬ノ岩屋

所在地：上益城郡山都町、八代市、八代郡氷川町、球磨郡球磨村

指定日：平成 26 年 11 月 21 日答申

今から約 220 年前、熊本藩主 8 代細川斉茲（1755～1835）の命を受けて、近世肥後の風景を描いた『領内名勝図巻』が作られました。この図巻に描かれた名勝地は江戸時代の郷土熊本の風景を真空パックしており、その美しい姿を現代の私たちに伝えています。現在、この図巻に描かれた風景地の多くが、高度経済成長期などを経て当時の様相を失ってしまいました。しかし、その一方で、今もなお当時の雰囲気が残る場所も少なからずあります。そのような場所のうち、五郎ガ瀧（上益城郡山都町）・聖り瀧（同）・走り水ノ瀧（八代市）・建神ノ岩（八代郡氷川町）・神ノ瀬ノ岩屋（球磨郡球磨村）の 5 箇所がまとめて国の名勝に指定されることになりました。

今回の指定を含めた取り組みは、『領内名勝図巻』そのものの美術工芸品としての評価だけでなく、そこに描かれた現地の風景の保護にも取り組むことで文化財の様々な価値をとらえようとする新たな試みです。

これらの取り組みが、風致景観の保護や新たな観光資源としての活用につながることを期待しています。



五郎ガ瀧



建神ノ岩



神ノ瀬ノ岩屋

国指定史跡 **三井三池炭鉱跡** 宮原坑跡 万田坑跡 専用鉄道敷跡

所在地：荒尾市（福岡県大牟田市）

追加指定日：平成 26 年 10 月 6 日

三井三池炭鉱跡は、明治期の炭坑遺構が残る日本の近代を代表する炭鉱跡です。

史跡は、宮原坑跡・万田坑跡及び各坑口と三池港を結び石炭や資材の運搬などに用いられた専用鉄道敷跡で構成されています。

今回、専用鉄道敷の一部が、国の史跡に追加されました。



専用鉄道敷跡 高架橋

国指定史跡 **豊後街道**

所在地：阿蘇市・阿蘇郡産山村

追加指定日：平成 26 年 10 月 6 日

豊後街道は、江戸時代に熊本藩主の参勤交代道として、また九州を横断する街道として機能しました。

街道は、豊後鶴崎（大分県）と肥後国熊本城下を結び、別名を肥後街道や鶴崎往還、肥後往還とも呼ばれました。

今回、二重峠のうちまだ指定を受けていなかった部分が、国の史跡として追加されました。



豊後街道

国選定重要文化的景観 み すみうら ぶんかてきけいかん 三角浦の文化的景観

所在地：う き し み すみ まち み すみ うら 宇城市三角町三角浦の一部

選定日：平成27年1月26日

み すみ うら ぶん か て き け い かん み す み せ と
三角浦の文化的景観は、三角ノ瀬戸に
面して展開しています。

み す み せ と や つ し ろ か い し ま ば ら わ ん
三角ノ瀬戸は、古代から八代海と島原湾を
結ぶ流通・往来の結節点でした。

また、変化に富んだ地形から景勝地として
知られ、保養都市として機能していました。

更に、明治20年（1887）には、きん 近
代港湾「三角旧港（三角西港）施設 平成
14年12月国指定重要文化財（建造物）
指定済み」が建設され、こうわんとし 港湾都市として
機能してきました。

近代以降に大きく発展し、二つの都市機能を保有した港湾都市という複合した文化的景観として評価されま
した。



み す み う ら ぶん か て き け い かん
三角浦の文化的景観（三角西港）

国選択無形民俗文化財 う や な ぎ ほん お ど り 植柳の盆踊

所在地：や つ し ろ し 八代市

保護団体：う や な ぎ ほん お ど り 植柳盆踊り保存会

選 択 日：平成26年3月10日

8月14日の夜に初盆の家などで踊られる盆踊りの一つで、
楽器演奏はなく、江戸時代に植柳で起きた心中事件をテ
マにした「折助おすて」など20もの口説歌に合わせ、輪
になって踊るものです。

踊り手は男女とも白装束に黒帯をしめ、しろ た び せ っ た 白足袋に雪駄を
はき、男はかさ 笠、女はくろふくめん 黒覆面で顔を隠します。

足を跳ね上げる荒々しい男踊りに対し、女踊りは単調な足
運びで、手を交差しておお向けに反り、指先を微妙に変化させる柔らかい踊りです。

一定の口説節や舞いをくり返す古風さ、洗練された舞い、独特な衣装が芸能の変遷過程を知る上で貴重であ
る点が評価されました。



う や な ぎ ほん お ど り
植柳の盆踊

※国選択無形民俗文化財とは？

正式には「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」といい、国の重要無形民俗文化財に指定されていない
民俗文化財の中で、調査を行い記録を作成するなどして後世に伝えていくべきものと国が認め選び出したものです。
調査の結果、高い価値が認められたら国指定となる可能性が出てきます。

み すみせんおう だ えきほん や
登録有形文化財 JR三角線網田駅本屋

所在地：宇土市下網田町字栗林下 2097-2

登録日：平成26年12月19日

宇土半島を東西に貫くJR三角線の中間部に位置し、明治32年(1899)に建築された現存する最古の駅舎です。九州でも最古級の現役駅舎でもあり、九州鉄道株式会社(明治21年設立、明治40年に国有化)によりつくられた駅舎としては現存する唯一のものです。幅19m、奥行6.3mの木造平屋建、寄棟造の建物で、西・南・北3面に下屋を巡らしています。外壁や内部の壁は土壁漆喰塗り、腰部は板張りペイント仕上げ、軸部は木造真壁、小屋組は洋小屋組。主要構造は建築当初の姿をとどめています。柱頭部には明治期の建築物らしい装飾が施されています。

現在に至るまで幾度か改修が行われていますが、県内最古の駅舎として地域の近代化を物語る貴重な遺産です。

(注1) 寄棟造 前後左右の4方向へ傾斜する面をもつ屋根のつくり。



み すみせんおう だ えきほん や
JR三角線網田駅本屋

しらいそほんかん はなれざしき
登録有形文化財 旅館白磯本館・離座敷・倉庫

所在地：天草市天草町高浜南 2725-2 他

登録日：平成26年12月19日

明治から昭和にかけて活躍した実業家赤崎伝三郎の住宅で、本館・倉庫は昭和12年(1937)、離座敷は大正3年(1914)にそれぞれ地元大工により建てられ、昭和25年から旅館として使用されてきました。

本館は、和風の家屋の東側に2階建の洋館をつなげた住宅で、中庭を囲む廊下沿いに各室を配置しています。離座敷は、平屋建・寄棟造で、外壁を下見板張りにし縦長の上下窓を並べるなど洋風の要素を見せるが、内部は和風座敷になっています。倉庫も、木造2階建・寄棟造で、外壁は下見板張、窓は外側を両開き戸となり洋風の要素が見られます。戦前の天草を代表する洋館の建つ豪壮な住宅であり、いずれの建物も前庭を囲んで建ち、屋敷構えに趣を添えています。

(注2) 土壁を保護するために、長い横板の下端がその下の板の上端に重なるように張る工法。



りよかんしらいそほんかん
旅館白磯本館

がわてつどうかんれん
登録有形文化財 くま川鉄道関連施設

所在地：人吉市、相良村、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町

登録日：平成26年12月19日

湯前線は、大正13年(1914)開業の旧鉄道省湯前線を前身とし、平成元年からは、くま川鉄道株式会社により管理・運営されています。

開業時にさかのぼる橋梁群や、大正12年に建設された湯前駅本屋、昭和28年(1953)に建設された川村駅、木上駅の待合所、同38年に建設された東多良木駅待合所などがまとまって残ります。中でも球磨川にかかる球磨川第四橋梁は、橋長322m、単線仕様の鋼製上路式プレートガーダー14連桁橋と長大なもので、くま川鉄道の代表構造物です。駅舎については、沿線で唯一戦前の姿をとどめています。待合所及びプラットホームについては、のどかな田園風景の中で情緒ある点景となっています。橋梁については、部材構成や補強技術に大正から昭和戦後期までの鉄道技術の変遷を示しています。



くまがわだいよんきょうりょう
球磨川第四橋梁

(注3) 基本的に鋼板(プレート)と形鋼の組み合わせによって構成される桁で、主桁の上面に線路が位置するタイプ。

装飾古墳と古代を体験する

—装飾古墳館の紹介—

装飾古墳館は、平成4年4月15日に開館した、県立として唯一の装飾古墳を専門に扱う博物館です。今年度の装飾古墳館の業務、調査研究、企画展示、教育普及について、ご紹介します。

【調査研究】

装飾古墳館では、装飾古墳の見学に適した時期、保存上影響の少ない時期を選定する際、判断の根拠である事前調査を行っています。その結果により関係市町村と協力して、熊本県内装飾古墳一斉公開を行っています。平成26年度の秋は、10月25・26日に県内11ヶ所の装飾古墳を公開しました。春については、3月21・22日に公開します。

【企画展示】

平成26年度の装飾古墳館で実施した企画展を紹介します。

- 「平和への誓約（うけい）」展 主査 学芸課 福田主任学芸員
会期 平成26年7月29日（火）～平成26年8月31日（日）
- 「勾玉が語る古代のアクセサリ」展 主査 学芸課 伊豫文化財保護主事
会期 平成26年9月17日（水）～11月18日（火）
- 「今に甦った 装飾古墳の絵柄たちーひのくに高等支援学校の試みー」
主査 木崎古墳館長
会期 平成26年11月22日（土）～平成27年1月12日（月）
- 「鹿角製品が語る装飾古墳展～国越古墳出土遺物から見た東アジアの地域間交流～」
主査 学芸課 福田主任学芸員
会期 平成27年1月20日（火）～平成27年5月10日（日）

【教育普及】

“体験参加型の博物館”が古墳館開館当初からのコンセプトです。今年度は、古墳館オリジナルメニュー「古代絵画教室」を県外の2会場で実施しました。

装飾古墳の素材である阿蘇溶結凝灰岩の石材とベンガラや黄土などの顔料を用いて絵画を描くものです。

9月22・23日のむきばんだ祭りにおける古代絵画教室（鳥取県米子市むきばんだ史跡公園）、10月31日～11月1日の第7回全国古代体験フェスティバルにおける古代絵画教室（兵庫県立考古博物館）に出展しました。



古代絵画教室（鳥取県米子市むきばんだ史跡公園）

【お問い合わせ】

熊本県立装飾古墳館

〒861-0561

熊本県山鹿市鹿央町岩原3085

TEL 0968 (36) 2151

装飾古墳館ホームページ

<http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp>



し せき きくち じょうあと 史跡鞠智城跡の特別史跡指定を目指しています

きくち じょうあと やまがし きくち し しよざい
鞠智城跡は、山鹿市と菊池市にかけて所在する
こだいさんじょう
古代山城で国史跡に指定されています。

昭和42年から始められた発掘調査は32次を数え、これまでに貴重な遺構や遺物が発見されました。これらの遺物は「温故創生館」で展示しています。熊本県では現在、鞠智城跡の特別史跡指定に向けた様々な取組みを山鹿市・菊池市とともに進めています。

平成26年7月27日（日）には東京の明治大学アカデミーコモン・アカデミーホールにおいて、『しよこつか かくりつ きくち じょう ぜんち 令国家の確立と鞠智城 ～698年「緒治」の実像を探る～』というテーマでシンポジウムを開催し、1200人を超える多くの方々にご参加いただきました。なお、シンポジウムに併せ、7月20日（日）～31日（木）にはシンポジウムの会場である明治大学アカデミーコモンにおいて、鞠智城パネル展を開催しました。

また、若手研究者5人に研究助成を行い、若手ならではの鋭い視点から鞠智城跡についての研究を行ってもらい若手研究者育成事業を実施しています。これは本年度で3回目の実施になりましたが、毎回多くの応募があり、各方面から高い評価を得ている取り組みです。今年度の採用者も、様々な分野から鞠智城跡を分析・検討し、鞠智城跡の謎を解き明かそうとこれまでになかった視点からアプローチしました。

これらシンポジウムの当日レジュメ資料や若手研究者育成事業の成果论文集など鞠智城跡に関する資料は、鞠智城・温故創生館のホームページから自由にダウンロードできるようになっていますので、是非、ご活用ください。

このほか、鞠智城イメージキャラクターころう君が率いる「さきもりころう隊」が各地に出陣し、県内外問わず様々な場所で鞠智城をPRしています。

【お問い合わせ】

熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館

〒861-0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原443-1

TEL 0968(48)3178

鞠智城温故創生館ホームページ

<http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/>

さきもりころう隊オフィシャルサイト

<http://cyber.pref.kumamoto.jp/korou-tai/>



鞠智城東京シンポジウム



鞠智城パネル展



ころう君

熊本県文化財調査報告会 「熊本ば！発掘する」

子どもたちをはじめ多くの県民の皆さんに本や雑誌ではなく、発掘調査で発見された本物の土器や石器などに直接触れてもらったり、自分が住んでいる熊本の文化財や歴史に関心をもってもらい、身近にある本物の文化財のすばらしさや感動を味わってもらうことを目的として報告会を開催しています。

第6回は、発掘調査や文化財調査についての報告の他に、肥後琵琶体験、貝のアクセサリ作り、昔の塗料ベンガラを使った小物作りといった体験活動も実施しました。

中でも初めて肥後琵琶に触れる子どもたちの笑顔が印象に残っています。

200人を超える参加があり、「説明がわかりやすく、勉強になりました。」という感想もありました。

第7回は、平成27年1月25日（日）に実施し、報告の他に能楽体験教室、三種の神器プラホビー作り、土偶マグネット・ミニ甕棺作り等の体験活動を実施しました。



【プレゼンテーション】



【ポスターセッション】



ころう君



【昔の塗料ベンガラを使った小物づくり】

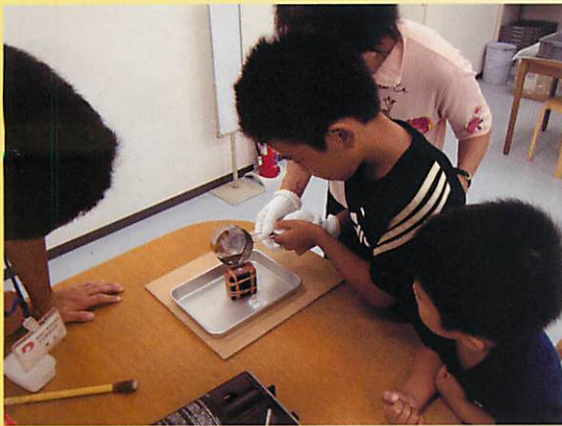


【肥後琵琶体験教室】

熊本県文化財資料室「展示・体験教室」



【本物の鏡に触れよう】



【鏡作り体験】

熊本県文化財資料室では、児童・生徒に向けて、夏休みと冬休み期間中に体験教室を実施しています。平成26年8月14日、15日には、『鏡作り体験教室』を行いました。

例年夏休み期間中には「勾玉作り」^{まがたま}を実施していましたが、今年度は初めての試みとして、^{そうしよくこふんかん}装飾古墳館の協力を得て鏡の^{いもの}鋳物作りに挑戦しました。

文化財資料室には熊本県が主体となった発掘調査で出土した鏡を保管しています。

当日は子供たちに鏡の実物を見てもらい、「**ピカピカの鏡を作ろう!**」と呼びかけて鏡を作り始めました。

光輝く鏡を作ろうと^{みが}磨き作業に熱中する姿を見ることができました。



完成した鏡

裏



表

熊本県文化財資料室

冬休みは土器焼き体験教室をしたよ!



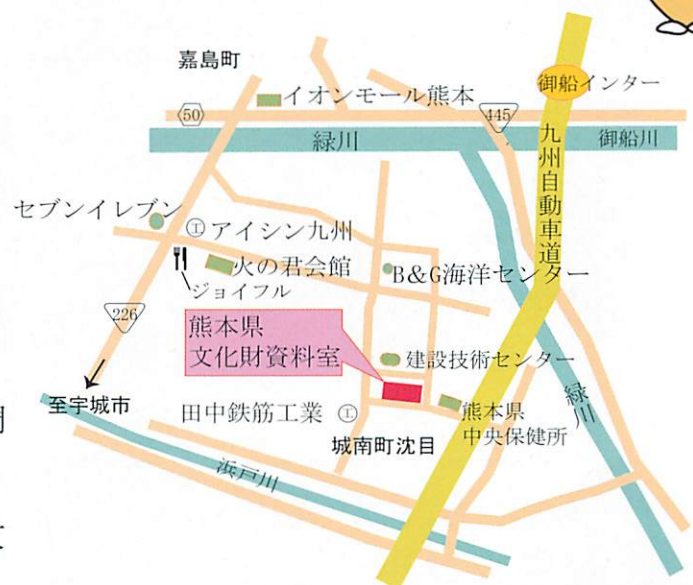
【展示・体験学習棟】

熊本県文化財資料室は、埋蔵文化財発掘調査の出土遺物の^{しゅつどいぶつ}収蔵・管理を行っています。

展示・体験学習棟もあり、一般公開および文化財普及活動^{ふきゆう}も実施しています。

公開は月曜～金曜（祝祭日を除く）、午前9時～午後5時までです。

ぜひ、見学にいらしてください。

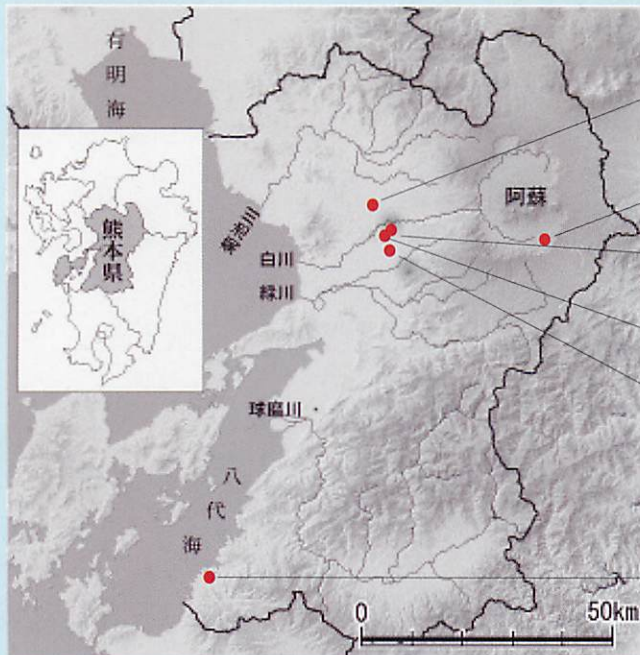


熊本県文化財資料室

〒861-4215 熊本市南区城南町沈目1667番地
Tel : 0964-28-4933 Fax : 0964-28-7798

平成 26 年度 県文化課発掘調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構・遺物	調査期間
1 飛田遺跡群	熊本市北区四方寄町	縄文・弥生	土偶、縄文土器、竪穴建物	H26.5～H26.8
2 幅・津留遺跡	阿蘇郡高森町	弥生・古代	竪穴建物、物見櫓、水路、焼成土壘、絵画土器、特殊な形状の土製品・石製品など	H26.5～H27.2
3 託麻弓削遺跡群	熊本市東区弓削町	縄文～古代	石製丸靱・竪穴建物・掘立柱建物・土師器 須恵器・縄文土器・石器	H26.5～H27.1
4 中江町遺跡	熊本市東区中江町	弥生	弥生土器	H26.7～H27.2
5 健軍神社周辺遺跡	熊本市東区東町	縄文・中世	土坑、溝状遺構、縄文土器・石器、土師器・ 須恵器	H26.7～H26.9
6 北園上野古墳群	水俣市ひばりヶ丘・陳内	古墳	土坑、竪穴建物、旧石器、縄文土器、古代 須恵器	H26.7～H27.3



1 飛田遺跡群

2 幅・津留遺跡

3 託麻弓削遺跡群

4 中江町遺跡

5 健軍神社周辺遺跡

6 北園上野古墳群



考古資料学習キット

考古資料学習キット

県文化課では、小・中学校の歴史学習の補助教材として、県内遺跡出土の主要な土器や石器を詰め合わせた『考古資料学習キット』を作成し、貸出しをしています。

本物の遺物に直接手でふれ、原始・古代の人々の知恵や工夫の跡を確かめてください。

【問合せ先】

熊本県教育庁教育総務局文化課

調査係 096-333-2706(2707)

熊本県文化財資料室 0964-28-4933

文化財通にくまもと第 33 号 平成 27 年 3 月 31 日

発行：熊本県教育委員会

TEL 096(333)2704 FAX 096(384)7200

編集：熊本県文化財資料室

TEL 0964(28)4933 FAX 0964(28)7798

印刷：有限会社 ソーゴーグラフィックス

発行者：熊本県

所 属：熊本県教育庁教育総務局文化課

発行年度：平成 26 年度